

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

読むこと部 研究主題

学びの質を高めるための、指導と評価活動の工夫

第3学年国語科学習指導案

単元名 伝え合おう わたしの「すごい」 ～文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもとう～

学習材名「ありの行列」(光村図書出版 3年)

日時：令和4年12月13日(火)6校時

児童：江東区立有明西学園 第3学年A組 31名

指導者：江東区立有明西学園 主任教諭 古屋 絵理子

1 単元の目標

- 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知識及び技能)
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(C(1)カ)	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①進んで、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、今までの学習を生かして、自分が感じた「すごい」についてまとめ、伝え合おうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

説明的な文章においては、段落相互の関係に着目しながら、文章の構造や内容を把握する学習を行ってきた。また、大事な言葉や文を見付けて要点をつかむことで、筆者がどのような考えを述べているのかを理解できるように指導を行ってきた。

3年生児童の読みの実態としては、その都度新たな文章の読み方を理解することはできるものの、それが定着しにくい。次単元に入ると既習事項を忘れてしまっていたり、日頃の読書生活に身に付いた力を活用することができなかつたりする。物語的な文章は日常的に読んでいるものの、説明的な文章や科学読み物に触れる機会が少ないことも理由として挙げられる。

また、文章を読んだ感想を書く経験は多いが、自身の知識や体験と結び付けながら文章に対する感想や考えをもつ経験は少ない。

そのため、本単元では、冒頭で学習材とは異なる科学読み物を活用したモデル文を提示したり、これまで

の説明的な文章の読みの学びを振り返らせたりすることで、児童が既習事項を生かして文章を理解できるようにしたい。そして、児童が文章を理解したうえで、自身の経験や知識と結び付けて、文章に対する感想をもつことができるようにする。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材は、児童にとって身近な「あり」を題材としており、児童が自分の今までの知識や経験と結び付けて内容を捉えたり、理解したことを基に考えや感想をもったりしやすい教材文であると考え。ウイルソンの実験や結果、考察、研究の流れを捉える中で、児童がどこの部分に興味をもち、そこからどのような感想をもつかは、一人一人異なってくる。それを伝え合うことで、互いの考えを知り、さらに文章についての理解が深まるようにしたい。

また、本学習材は、児童がこれまでに3年生で学習した説明的な文章と、「中」の部分の構成の違いがあり、既習と比べさせることで、その特徴に気付かせたい。ウイルソンの研究の内容を捉える際には、したこと（「ウイルソンの研究の進め方」）と分かったこと（「ありが行列を作る仕組み」）という2つの視点から、各段落の大事な言葉や文を捉えることで、理解できるようにする。

(3) 単元について（単元観）

本単元の主なねらいである、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けること」「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」を達成するために、「文章を読んで感じた『すごい』を友達と伝え合う」という言語活動を設定した。初発の感想を基に、児童が興味をもったことや疑問、もっと知りたいことを整理していき、学習課題を設定し、学習計画を立てる。児童の感想は、「ウイルソンの実験や研究」と「ありが行列を作る仕組み」の2つの視点で出てくることが想定される。そこで、第2時では、初発の感想や内容の大体を捉える中で、児童と一緒に読みの視点を確認し、その視点で読み進めるなかで、第3～5時間目でウイルソンの実験や研究の内容をまとめ、そこで感じた自分の「すごい」という思いやその理由を書き溜めるようにする。そして、単元の後半、第6時間目において、児童が今までの学習を振り返り、一番感じた「すごい」という思いとその理由について、初発の感想よりも、より具体的な言葉や文でまとめたり、さらなる疑問やもっと知りたいことを出したりできるようにしたい。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では、段落相互の関係を理解するために必要な指示語や接続語を理解するとともに、「すごい」という思いを別の言葉に置き換えた表現などを蓄積し、それらを活用できるようにする。また、感想をもつための「比べる」視点や、友達と考えを共有する際に自分と同じところや違うところを意識して感想や理由を伝え合うという学び方を習得させたい。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

本単元では、段落相互の關係に注目しながら文章の構造や内容を捉えたり、要点をまとめたりするこれまでの3年生の学習経験を生かして文章を読み、その理解したことを基に、児童が感想や考えをもつことができる力を身に付けることに重点を置いた。「文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつこと」が指導事項になる低学年から進め、中学年は、文章の内容だけでなく、読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことに重点を置いている。

本単元で身に付けさせたい力は以下の通りである。

- 読み取った「すごい」という言葉を別の表現に置き換えて考える力
- 文章を読んで理解したことと自分の知識や経験とを結び付けて（比べて）感想をもつ力
- 叙述に基づき、感想や理由を具体的に書く力
- 分かったことに関連した新たな疑問やもっと知りたいことを見付ける力

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

学びの必然性や見通しをもたせる工夫

本単元では、まず、導入で「あり」について知っていることや経験を振り返ったり、動画を見て、ありが行列ができる仕組みについて予想を話し合ったりした上で、教材文と出合わせる。そうすることで、児童の学習材の内容に対する驚きや興味、疑問がより引き出され、もっと知りたいという意欲にもつながる。意欲をもたせた上で、その「すごい」という思いをより具体的に友達に伝えるためには、内容をより正しく理解する必要があることを確認したり、他の生き物について書かれたモデル文を提示したりすることで、

学びに必然性をもたせるとともに、学習の見通しをもたせる。ありの行列ができる仕組みを解明するまでの研究の流れについて、児童には「ウイルソン大発見までの道のり」と表現することで、意欲的に取り組めるようにする。

自分の考えやその理由をより具体的にもたせるための工夫

- 「すごい」という思いに関する語彙を広げるため

初発の感想の際にどのような表現があるか児童に投げかけたり、第2次の児童の感想から、言い換えた表現を全体で取り上げたり、掲示したりする。それらの表現は、次時以降で、他の児童が自分の考えに合ったものを活用できるようにする。

- 児童が考えの理由を説明できるようにするため

「比べる」視点を提示する。「比べる」視点としては、「予想と比べる」や「自分の知っていること（見たこと、聞いたこと、本で読んだこと）と比べる」が考えられる。それらの視点を、単元の導入で児童が知識や経験を振り返ったり、初発の感想、第2次の感想で「すごい」と思った理由を書いたりする際に、児童から出てきたものを共有したり、教師側から提示したりする。

この2点に関して、児童が新たに知ったこと、自分の表現に生かしたいことを、振り返りの際に「学びの手引き」に書き込むようにする。

(3) 評価活動の工夫

- ①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

感想をもつ視点や語彙の変容の見取り

本単元では、単元の終わりに自分が見付けた「すごい」やその理由をまとめることができるように、第2次において「すごい」を書き溜めていき、読み取ったことから考えをまとめられているか、感想の表現や感想をもつ視点などがどのように変容したか、友達と共有することで感想に広がりが見られたかを、第6時間目で書いた感想文から見取り、評価する。第6時間目で感想を書く際には、感じた「すごい」について、叙述を根拠にして具体的に感想を書くことができていない場合はC評価、「叙述に関連した自身の知識や経験と結び付けながら感想を書いている。」「叙述の内容に関連した疑問やもっと知りたいことを書いている。」「『すごい』の語彙の広がりや比べる視点の活用が見られるなど、多様な見方ができている。」場合はA評価とする。

- ②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

感想をもたせるための表と付箋の活用

第3～5時間目では、実験や研究、結果を毎時間表にまとめていくことで、文章を読んで分かったことを整理できるようにした。また、表に書き込んだことを根拠として、感想をもち、付箋に書くことができるようにワークシートを工夫した。ここで作成した表と付箋から、毎時間の学習内容を個々の児童が理解しているか、ペープサートを活用することでより具体的に理解できるようになったか、理解したことに基づいて感想をもっているかを見取り、次時の指導に生かせるようにする。

第6時間目でどの児童も感想をもつことができるように、第2次で感想を書き溜める学習活動において、A評価の児童の感想を紹介したり、よい表現を掲示したりしながら、次時でより多くの児童が活用できるようにする。また、広がりが見られない場合は、教師から問いや言葉かけをする。

- ③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

説明文を読んだり、感想をもったりするためのコツに関する振り返り

児童が自分にどのような力が身に付いたのかを振り返り、自己評価する際には、「学びの手引き」を活用する。本単元では、第2時間目において、3年生の現段階までに、説明的な文章において、どのようなことに気を付けて読んできたのか（どのような力が身に付いたのか）を振り返り、既習事項を生かして、本学習材の内容を捉えていくことを児童と共有する。そして、第3～6時間目において内容を捉えたり感想をもったりする上で、新たな読みの力が必要な際は、それを「学びの手引き」に書き加えて、次の学習で生かせるようにする。最終的には、第7時間目において、児童が学習を振り返る際には、説明文の内容の理解を深めたり、自分の感想をもったりする際に必要となった新たな力について、「説明文をくわしく読むコツ」「説明文を読んで感想を書くコツ」として、自分の言葉で「学びの手引き」にまとめ、自分ができるようになったことを自覚できるようにする。また、次単元や今後の学習でどのように活用したいかも振り返りに書き、次の学習に向かう意欲を高める。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
一	1	1 ありについて知っていることを話し合う。 2 ありの行列ができる様子の動画を見て、ありの行列ができる仕組みについて予想を話し合う。 3 全文を読む。 4 初発の感想を交流する。 5 初発の感想をもとに、単元のめあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">「ありの行列」を読んで感じた「すごい」を友達と伝え合おう。</div>	○児童が意欲的に「ありの行列」を読むことができるように、ありに関する知識や経験を振り返ったり、ありの行列ができる仕組みについて予想したりする活動を設定する。 ○ここで出た意見は、文章を読んだ感想をもつときにありに関する自身の知識と比べやすくするために、教室掲示する。 ○自由な感想を書きやすくするために、感想の観点は与えない。 ○児童が書いた感想から「初めて知ったこと」や「すごいと思ったこと」などを取り上げ、友達と感想を伝え合うことの意欲付けをし、めあてを設定する。 ○児童が第3～5時で見つけた「すごい」を書く時や第6時で感想を書く時の材料にできるよう、「すごい」以外の語句を使ったり、自身の知識・経験と結び付けたりして書かれている感想を取り上げ、教室掲示する。	
二 構造と内容の把握	2	1 学習材とは異なる科学読み物で教師が作成した感想のモデル文を見て、学習の見通しをもつ。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">文章の組み立てをつかみ、学習計画を立てよう。</div> 3 既習事項を振り返る。 4 問いと答えの文を確認し、文章を「始め」「中」「終わり」に分ける。	○事前に科学読み物の読み聞かせをしておく。学習材と同様に、観察者の視点と、生き物の視点両方書かれているものを扱う。モデル文も、その2つの視点それぞれに感想をもったものを2種類提示する。 ○学習計画を立てるために、まずは既習事項を活用して文章の組み立てをつかむ必要があることを確認し、めあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">手引きの活用</div> ・これからの学習に生かせそうな既習事項を確認する。 「問い」「答え」「段落」「要点」「組み立て（始め・中・終わり）」 ○問いと答えの文を確認し、「始め（問い）」「中（実験・研究）」「終わり（答え）」の構造を捉えさせる。 ○「中」の構成が既習の説明的な文章とは違うことに気付かせる。	

		<p>5 「中」の文章を読んで、ウイルソンの研究の流れを捉える。</p> <p>6 単元のゴールに向けて、学習計画を立てる。</p>	<p>○指示語や接続語に着目させ、児童がウイルソンの研究の流れを捉えられるようにする。</p> <p>○「中」の文章が「ウイルソンの実験や研究」と「ありが行列を作る仕組み」で構成されていることに児童が気付けるように、前時で書いた感想から上記二つに着目して書いているものを取り上げる。</p> <p>○「すごいと思ったこと」を友達と伝え合うためには、「ウイルソンの実験や研究」と「ありが行列を作る仕組み」について読み、文章を理解する必要があることを確認し、学習計画を立てる。</p>	<p>◆【知識・技能①】 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割等に気を付けながら、構成を捉えているかの確認。</p> <p>★発言・全文シート</p>
<p>二 構造と内容の把握 精査・解釈 考えの形成</p>	<p>3</p>	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「ウイルソンがした実験」をまとめよう。</p> </div> <p>2 「ウイルソンがした実験」を表にまとめる。</p> <p>3 本時で見付けた「すごい」についてメモする。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、手引きに追加する。</p>	<p>○第3時では、表へのまとめ方などを全体で確認しながら進め、第4・5時では個人で活動させる。</p> <p>○「実験や研究(ウイルソンがしたこと)」には青色、「結果(ありの行動や体の仕組み)」には赤色の傍線を引いてから表にまとめさせる。</p> <p>○児童がウイルソンのしたことやありの動きを理解できるように、ペーパサートを活用して動作化する時間を設ける。</p> <p>○児童が「ウイルソンの実験や研究」の流れを正確に捉えられるように、考察についても確認する。 考察が明確に書かれていない実験①では、ウイルソンが結果からどのような考察をしたのかについて、全体で考える。</p> <p>○「今日見付けたすごい」を付箋にメモさせる。その際に、「すごい」以外の言葉で考えを表現できている児童を紹介することで、児童の語彙を増やす。また、すごいと思った理由もメモするとよいということを伝える。</p> <p>○理由を考える際には、自身の経験や知識、あり以外の動物などと比べるとよいことを伝える。比べる視点は児童の考えを取り上げながら随時、共有する。</p> <p>○「今日見付けたすごい」について友達と交流し、感想を伝え合う時間を設定する。第7時で共有する際の視点を、第3～5時の交流を通して児童が獲得できるように、以下の点に着目して交流するとよい</p>	<p>第3～5時で表にまとめる内容</p> <p>●実験①(第3段落)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 ありの巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおいた。 ・結果 一びきのありがさとうを見つけ、巣に帰っていくと、巣の中からたくさんのありが次々と出てきて、列を作った。 ・考察 巣に帰る時に通った道すじから外れていないが、なぜ行列ができるのは分からない。 <p>●実験②(第4段落)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 ありの行列の道すじに石をおいて、ありの行く手をさえぎった。 ・結果 一びきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけ、他のありがたちも、一びき二ひきと道を見つけて、だんだんにありの行列ができた。 ・考察(第5段落) ありが、地面に何か道しるべになるものをつけているのではないか。

4	<p>1 前時の学習を振り返り、今後の学習計画と本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「ウイルソンがした研究」をまとめよう。</div> <p>2 「ウイルソンの研究」を表にまとめる。</p> <p>3 本時で見付けた「すごい」についてメモする。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、手引きに追加する。</p>	<p>ことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と友達の考えの同じところ ・自分と友達の考えの違うところ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">手引きの活用</div> <p>毎時間の終わりに「説明文をくわしく読むコツ」「説明文を読んで感想を書くコツ」という視点で、新たに身に付いた力を振り返らせ、気付いたことを書かせる。具体的には、「文章を読んですごいと思ったことの原因」を書く際に、どのようなことと比べて考えたのか書かせる。</p> <p>例：文章に書かれていることと、自分の知っていることを比べて考えるとよい。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>●研究（第6段落）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究 はたらきありの体の仕組みを研究した。 ・結果 ありは、おしりのところから、においのあるじょうはつしやすいえきを出すことが分かった。 </div>
5	<p>1 前時の学習を振り返り、今後の学習計画と本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「ありが行列を作る仕組み」をまとめよう。</div> <p>2 「ありが行列を作る仕組み」をまとめる。</p> <p>3 本時で見付けた「すごい」についてメモする。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、手引きに追加する。</p>	<p>○第5時の終わりに文章を理解した上で「もっと知りたいと思ったこと」について問いかけ、教科書P.101の「もっと読もう」を紹介することで、疑問も感想の一つであることや、そこから読書活動を広げていくことの良さを確認する。尚、疑問も付箋にメモしてよいことを伝える。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>●ありが行列を作る仕組み（第8段落） はたらきありは、えきを見つけると道しるべとして、地面においのあるえきをつけながら帰り、他のはたらきありはそのにおいにそって歩く。他のありがたちもえきを持ち帰るときに、えきを地面につけながら歩く。そのため、えきが多いほど、においが強くなる。</p> </div> <p>◆【思考・判断・表現 ①】 目的を意識して、中心となる語や文を見付けているかの確認。</p> <p>★発言・ワークシート</p>

<p>二 考 え の 形 成</p>	<p>6 本 時</p>	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ありの行列」を読んで分かったことをもとに、自分が感じた「すごい」をまとめよう。</p> </div> <p>2 全文を読む。</p> <p>3 前時までの学習について振り返る。</p> <p>4 「ありの行列」を読んで、自分が感じた「すごい」について感想を書く。</p> <p>5 書いた感想を、ペアで読み合う。</p> <p>6 本時の学習について振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○全文を通読し、「ウイルソンの実験や研究」の流れや、「ありが行列を作る仕組み」について振り返らせる。</p> <p>○前時まで(第3～5時)に自分が書き溜めておいた感想を、付箋を見て振り返らせる。</p> <p>○観察者の視点、生き物の視点のそれぞれに着目した感想を書いた2種類のモデル文を活用しながら、感想を書く際の視点を提示したり、自分の知識や経験を取り入れて書くように助言したりする。</p> <p>○初発の感想では「すごい」という表現だったことを、具体的に、多様化させて書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>手引きの活用</p> </div> <p>「説明文を読んで感想を書くコツ」という視点で、新たに身に付いた力を振り返らせ、気付いたことを追記する。</p>	<p>◆【思考・判断・表現②】</p> <p>文章を読んで理解したことに基づいてこれまで見付けてきた「すごいと思ったこと」と「その理由」を生かしながら、自分が感じた「すごい」についてまとめようとしているかの確認。</p> <p>★様子・ワークシート・学びの手引き</p>
<p>三 共 有</p>	<p>7</p>	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ありの行列」を読んで感じた「すごい」を友達と伝え合おう。</p> </div> <p>2 「ありの行列」を読んで感じたすごさを友達と伝え合う。</p> <p>3 交流をして気付いたことを発表する。</p> <p>4 本単元の学習について振り返る。</p>	<p>○交流は以下の方法で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人一組で一人ずつ、「感じた『すごい』」を伝える。 ・聞き手は、友達の「感じた『すごい』」に対して、何がどのようによいと思ったのか、なぜよいと思ったのか、具体的に伝える。 <p>○第3～5時の交流の際の視点を取り上げ、以下の点に着目して交流するとよいということを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と友達の考えの同じところ ・自分と友達の考えの違うところ <p>○自分と友達の感想を比べて、「すごい」と感じるどころや感想は同じであったり違っていたりすることに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>手引きの活用</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「説明文をくわしく読むコツ」「説明文を読んで感想を書くコツ」について、新たに身に付いた力を振り返る。 ・本単元の自身の学習に対する学びを振り返る。 	<p>◆【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、友達と伝え合うために、本単元で新たに身に付いた力について、振り返っているかの確認。</p> <p>★学びの手引き</p>

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> 「ありの行列」を読んで分かったことをもとに、自分が感じた「すごい」をまとめよう。 </div>		
2 学習材の全文を読む。 3 前時までの学習について振り返る。 4 「ありの行列」を読んで、自分が感じた「すごい」について感想を書く。	○本時で書く「ありの行列」を読んだ感想を次時に伝え合うことを確認する。 ○全文を通読し、「ウイルソンの実験や研究」の流れや、「ありが行列を作る仕組み」について振り返らせる。 ○前時まで（第3～5時）に自分が書き溜めておいた感想を、付箋を見て振り返らせる。《柱③》 ○観察者の視点、生き物の視点のそれぞれに着目した感想を書いた2種類のモデル文を活用しながら、感想を書く際の観点を提示したり、自分の知識や経験を取り入れて書くように助言したりする。《柱①》 ○初発の感想では「すごい」という表現だったことを、具体的に、多様化させて書かせる。《柱②》	◆【思考・判断・表現①】 文章を読んで理解したことに基づいてこれまで見付けてきた「すごいと思ったこと」と「その理由」を生かしながら、自分が感じた「すごい」についてまとめようとしているかの確認。 ★様子・ワークシート・学びの手引き
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○「すごい」と感じたことを以下のように具体化・多様化して書かせる。 ・文章を読んで分かった ・引き付けられた ・頭が良いと思った ・興味をもった ・予想と違った ・初めて知った ・面白いと感じた ・おどろいた ・気になった など </div>		
5 書いた感想を、ペアで読み合う。 6 本時の学習について振り返り、次時の見通しをもつ。	○以下の視点で感想を書かせる。 ①自分が見つけた「すごい」(文章を読んで分かったこと、初めて知ったこと、引き付けられたことなど) ②それに対する感想や理由 ③関連した疑問や、もっと知りたいと思ったこと ○本格的な共有は次時で行うため、隣同士で読み合う程度にとどめておく。読んだ後、感想を伝えさせる。 手引きの活用 「説明文を読んで感想を書くこつ」という視点で、新たに身に付いた力を振り返らせ、気付いたことを追記する。《柱④》	○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u> 感想に自分の経験（生活経験や理科の学習経験など）や知識を取り入れて書かせる。 ○ <u>おおむね満足できる状況を指す児童への本時以降の手立て</u> 学習材の叙述と結び付けて、自分が「すごい」と感じたことを具体的に書かせる。 ○「ありの行列を読んで分かったことを基に感想を書いたか」という視点で振り返らせ、次時は友達と感想を共有することを確認する。

(3)板書計画

伝え合おう わたしの「すごい」
文章を読んで理かいたことにもとづいて、感想をもとう

ありの行列
大たき てつや

◎「ありの行列を読んで分かったことをもとに、自分が感じた「すごい」をまとめよう。

第二次で書いた
付箋の例
(観察者の視点)

第二次で書いた
付箋の例
(生き物の視点)

モデル文 (観察者の視点)

モデル文 (生き物の視点)

①見つけた「すごい」

②くわしい理由・考え・感想

③これからのこと・ぎ問
調べたいこと

7 資料

〈第2時、第6時で提示するモデル文〉

・ 観察者の視点で書いた感想例

わたしは、「アオムシの歩く道」を
読んで、くわしいかんさつをしてア
オムシの歩き方のなぞをとき明かし
た小原さんが、とてもねばり強いと思
いました。
クラスでアオムシをかっていた時、
わたしは歩き方なんて全く気にして
いませんでした。でも、小原さんは何
度もかんさつと実けんをくり返して、
アオムシが糸の道をつくるしくみを
つきとめました。その集中力を見習
いたいと思いました。
わたしも、小原さんのように、きよ
うみをもったことについてじっくりと
考えてみたいです。

・ 生き物の視点で書いた感想例

わたしは、「アオムシの歩く道」を
読んで、よう虫がさなぎになるため
に、糸をせつやくして歩くことを知っ
て頭がいいと思いました。
わたしは、よう虫がキャベツから落
ちるのは、体が大きくなって重くなっ
たからだと思っていました。しかし、さ
なぎを作るために糸を出さないと知っ
て、とてもおどろきました。
これはモンシロチョウのよう虫の
話でしたが、ほかの虫のよう虫も、
同じようなくふうをしているのかと
ぎ問に思いました。自しゅ学習で調べ
たいです。

< 学びの手引き >

・ 既習事項の振り返り

学びの手引き ありの行列	【これまでの説明文の学習で学んできたこと】 ・ つなぎ言葉 ・ 問いと答え ・ だん落 ・ 組み立て(はじめ、中、終わり) ・ じゅんじょ ・ 大事な言葉 ・ 要点
-----------------	---

・ 本単元で新たに身に付いた力の振り返り

学びの手引き 説明文を読んで感想を書くこと	★身に付いた力 ・ どんな「すごい」を見つけたかを書き、その理由をくわしく書く。 ・ 自分の知識や自分の考え、けいけんを入れる。 ・ 自分や人間、他の生き物とくらべる。 ・ ありの行列を読んで、自分がさいしょに思っていたこととくらべる。 ・ 「すごい」をべつの言葉に言いかえる。 ・ 組み立てやだん落に気をつけて読んで、気になったところについてくわしく読んでみる と、感想を書きやすい。 ・ 感想のふせんをいかず。 ・ 「すごい」「理由」「これからのこと」を書く。
★ふり返り	国語の学習で、「すごい」を伝えるときや、何かの動物について疑問をもったときに、自分の予想やちがう動物とくらべたら、分かりやすいと思った。文しょうを読むときには、書いていることを表にまどめたり、自分のけいけんや読む前の考え、知しきとくらべながら読んでほしい。 「すごい」の言いかえの言葉は、「おどろいた」「びっくりした」などしか知らなかったけれど、たくさんあることを知った。これから、自分の思いや考えを伝えるときに使いたい。

学びの手引き ありの行列 説明文をくわしく読むこと	★身に付いた力 ・ そのだん落のウイルソンがしたこととありがしたことを分けたら、どのようにウイルソンが研究をしていたかが分かった。 ・ また、ありのしたことや行動について分かった。 ・ だん落すつ何が書いてあるのか、くわしく読むとないようが分かる。 ・ 一つ一つの言葉について、ベーパーサートを使って、どういう意味なのか考えながら読むと、ないようが分かるようになる。 ・ ありについて書かれているところと、ウイルソンについて書かれているところに分けて表にまどめると、ないようが分かる。
---------------------------------	---